

新聞で知る! 学ぶ! 考える!

市では、「新聞を教育活動に活用し、読解力や情報活用能力の向上を図り、将来のリーダーとしての社会的資質の基礎を養う」ことを目的に、市内の小・中学校25校に全国紙1紙、地方紙1紙を配布する新聞活用教育事業を行っています。各学校では、新聞コーナーを設けて自由に閲覧できるようにしたり、新聞を読んだ感想を掲示するなど、独自の取り組みが見られます。

今号では、南小学校と大深内中学校の先生に、新聞活用教育事業についてインタビューしました。

Q1 新聞をどのように活用していますか

《南小学校》

子どもたちが新聞記事に触れることができるように、階段の壁面にコーナーを設けています。中学年は昔話などを、高学年は教科ごとに分類して掲示しています。本年度は、さらに子どもたちに興味・関心を持ってもらうために、新聞記事に関係したクイズを出題するなど、掲示方法にも工夫して取り組んでいます。

また、本校や地域に関する記事について、切り抜き、印刷し、各学級へ配布しています。各学級では、朝の会などで子どもたちに記事を紹介し、感想などを話し合っています。そして、教室に新聞コーナーを設けて、いつでも振り返ることができるようにしています。



教室の新聞コーナー

《大深内中学校》

生徒が自由に読むことができるよう、教室に新聞を置いています。

新聞の記事の中から、生徒が気になる記事を選び、「今日のニュース」として発表している学級もあります。

国語の授業では、新聞のコラム欄（「天声人語」「天鐘」「天地人」など）に使われている漢字を問題として小テストを行ったり、複数の新聞から同じ出来事についての記事を読み取り、どのような意図や考えを持ってこの記事が書かれたのかを考えたり、意見交換したりしています。



記事の意図を読み取る



複数の新聞記事を比較

Q2 子どもたちはどのように変わりましたか

《南小学校》

登下校時や休み時間に新聞コーナーの前で立ち止まって記事を読む子どもたちが増えてきています。そして、新聞記事の内容について友達同士で自由に意見交換をしている姿を見ると、本事業が子どもたちにとって、とても意味のある取り組みだと実感しています。高学年の子どもたちは、各教科やキャリア教育と関連付けて新聞記事を読み、授業の学びを自分事として考えられるようになってきたことが成果だと思います。

《大深内中学校》

社会で実際に活用されている言葉について、既に学習している事項との関連付けをすることができるようになりました。また、新聞などのメディアから情報を得る際に、複数の情報を見比べて必要な情報を選び、その意図を考えることができるようになりました。そして、何よりも、自分の考えとは異なる意見に対しても、興味を持ち、考えるようになったことが大きな成果だと思います。

❖ 児童・生徒・先生からの一言 ❖

《南小学校》



とよかわ やすひさ
豊川 靖永くん（6年）

地域のことや自分の通っている学校の記事があり、とても興味を持ちました。「新聞を毎日読んでみたい」と思い、今では、学校でも家でも新聞を楽しみながら読んでいます。



わだ まりえ
和田 麻里江さん（6年）

私はいつも社会科の歴史新聞を読んでいます。最初はあまり興味がなかったのですが、新聞を見てみると歴史の裏舞台が紹介されるなど工夫があり面白くなりました。

いのかべ ふみか 《新延 文香先生》

テレビやインターネットなどからも多くの情報を得ることはできますが、新聞を手にとって活字を読むことで、より記憶に残るのではないかと考えています。また、掲載されている記事を学校での各教科と関連付けて読むことで興味・関心が広がり、学習が楽しくなることを願っています。

《大深内中学校》



ささき たいよう
佐々木 太陽くん（3年）

同じ出来事を伝えた記事にも、伝える人それぞれの考え方や気持ちが反映されることが分かりました。いろいろな角度からの情報を頭に入れ、自分なりに判断できるようになりたいと思います。



のづきりょうた
野月 瞭太くん（3年）

新聞を細かいところまで見比べていくと、それぞれ伝え方や考え方が全く違うことに気がきました。自分が意見を伝えるときには、よく考え、分かりやすい言葉で伝えたいと思います。

いちかわ まさひと 《市川 将人先生》

新聞と新聞、新聞とインターネットニュースなど、異なるメディアを比較することによって、1つの出来事に対していろいろな見方や考えがあることを知ってほしいと思います。その上で情報に振り回されず、しっかりと自分の考えを持ってほしいと思います。